

学校関係者評価委員会報告書

学校法人瓶井学園日本理工情報専門学校は、令和7年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和8年4月4日に学校関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和8年4月10日

学校法人瓶井学園

日本理工情報専門学校

学校長 瓶井 通

1. 学校関係者評価委員

氏名	所属	種別
石上 芳弘	イシウエヨシヒロ建築設計事務所 代表	企業等委員
蔵敷 重壽		元高等学校校長
宮崎 雄次	大阪府電気工事工業組合 理事	業界団体
西口 良一	東洋ビルメンテナンス株式会社	卒業生／企業等委員
増南 正	有限会社スタジオ・マックス代表取締役	卒業生／企業等委員
篠原 史規	有限会社車楽工房	企業等委員
谷口 勇人	株式会社ジェイファスト	企業等委員

2. 議事報告

項目	評価・意見
(1)教育理念・目標	<p>学校の理念・目標について、評価項目によって差異はあるが適切に定められ進められているとの自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>設置学科のほとんどが職業実践専門課程となっており、またその肝である職業実践教育については今年度も協力して頂ける企業があり、毎年増加していることから、実社会を知ることのできる職業教育の場を設けることができているのと同時に学生自身も業界のニーズを感じるよい機会となり、相乗効果を得ることができていると評価されました。加えて職業教育を受講した企業と同じ業界を目指す学生が増加する傾向にあり、職業教育の特色が適切に明確にできている点が結果に現れていると評価されました。また夜間部を設置していることで社会人のリスキリング・リカレント教育にも応えられていることは一定の評価を得ましたが、今後も社会のニーズには注視していくことが必要であるという認識で意見は一致しました。</p>
(2)学校運営	<p>運営においては、理事長が引き続き職務を再任されており、定例の理事会議ならびに評議委員会議も年2回以上行われており、運営組織や意思決定機能が有効に機能していると判断され理解を得られた。</p> <p>学校教育法改正による学則変更や修学支援新制度の対象機関として</p>

	<p>維持されることは、入学を希望する学生の学ぶ機会が失われないようにする目的に沿った運営方針であり、「目的等に沿った運営方針が策定されているか」についての適切との自己点検・自己評価は妥当であるとの評価を頂いた。今後も制度に対応できるように運営を進めていく必要はあるとの点で意見は一致しました。</p> <p>また、教育課程編成委員会の開催については、事業計画を策定していく上で社会のニーズが学校運営側の認識と合致しているかを確認する諮問機関として機能しており、「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」についての自己点検・自己評価において、ほぼ適切という評価は妥当であるとの意見で一致した。</p> <p>最後に「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」については、「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」はホームページにおいて公開し、さらにSNSも利用しながら様々な情報を発信しているが、有益な情報がまだまだ認知されておらず、発信方法も含めて適宜見直しが必要であり、検討を重ねていくことが必要であるため、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見で一致した。</p>
(3)教育活動	<p>「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準が明確になっているか」については、成績評価方法として5段階評価を採用し、明確な評価を明示できるようにしていることに関しては引き続き良い評価を得られている。</p> <p>また、「授業評価の実施・評価体制はあるか」については、授業評価方法として、学生の回答しやすいオンライン環境も整え、学生の声を活かせるように整備を進めており、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。ただし、アンケートでの回答や世間のニーズを踏まえた授業形態の工夫を継続して模索することもあわせて委員の方と確認しました。</p> <p>「関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか」・「職員の能力開発のための研修等が行われているか」の2点については、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>今後も指導力を養うための専攻分野の研修にとどまらず、近年の多様な生活・就職指導に役立てるため、教員としての資質を養うための研修も利用し、教員がいかに魅力ある授業をし、学生がそれによって希望ある将来が描けるか、学生ファーストの立場を各教員が意識しながらスキルアップや自己研鑽ができる体制を引き続き進めていきたい。</p>
(4)学修成果	<p>「就職率の向上が図られているか」については、引き続き就職率は高い水準で維持されているため適切との自己点検・自己評価は妥当であるとされたが、今後増加していく傾向にある外国籍の学生の受入れ先についても注力する必要がある。また、人手不足の中でテクニカルな部分よりもアカデミックを優先する企業も増加する可能性があるため、いかに専門技術の取得の優位性をアピールする必要性が今後は出てくるのではないかという意見も頂戴しました。そのため現状にとどまらず引き続き多くの企業との接点を持ち、学生たちの選択肢を広げるとともに企業側のニーズもとらえておく必要があるという認識で一致しました。</p>

	<p>また、「資格取得率の向上が図られているか」について、適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>今年度重点的に取り組む目標とした国家資格試験等の資格受験率の向上とその資格等の合格率の向上については、受験率・合格率とも全体的には向上が図れていた。合格率が以前より下がっている資格もあるため、引き続き創意工夫を図ることは必要であるということを確認しました。</p> <p>また、前年に意見を頂戴した学内のコンペティションの開催について、一部の学科で開催することができたことを報告しました。</p> <p>まだまだ試験的な部分が多いので、今後の開催の方法や内容について意見を頂戴した。</p> <p>「退学率の低減が図られているか」について、学校全体としての目標数値を設定し、その数値をクリアすることはできた。これに関しては昨年よりも減少していることから次年度も目標数値を設定し継続して取り組んでいくべき項目であることを確認しました。</p> <p>ただし、退学率は今年度も0%にならなかったため、適切とまでは言えないが目標数値を決めてそれに向け取り組んでいくことができているため、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見で一致した。</p> <p>「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」の2点について、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>引き続き卒業生の就業先企業等との産学連携の理解・協力を得ており、在校生の就職にもつながっている。</p> <p>職業実践教育を通して卒業生の就業先企業との関係が結びつきやすくなっており、学校側としても情報を数多く発信できる機会が増えており、良い相乗効果を産んでいるという判断となっているが、今後に向けては卒業生自身にもスポットをあて、こちら側からアクションしてOBとの関わりを深める方法を検討していく必要があるのではないかという意見を頂戴しました。</p>
(5)学生支援	<p>「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」、「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」の2点について適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>引き続き昼間部、夜間部とも専門実践教育訓練給付制度の対象学科として一部の学科がその対象となっている。また高等教育の修学支援新制度の対象機関を維持することができており、その制度の拡充により利用者が急増している社会状況を踏まえ、学生の学ぶ機会が失われなような教育環境を構築することができていることは一定の評価を得ることができた。</p> <p>企業の開拓には留学生の受入れ拡大を目標に、今年度も新しく数社が留学生の受け入れをしていただいた。</p> <p>留学生の受け入れに関しては今後も増加が見込まれるため、ただ待っている状態ではなく様々な国籍の学生の進学意識を汲み取り、更なる受け入れ先の確保が必要である。</p> <p>成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生や保護者に対しては詳しく状況を説明し、懇談を行うなど適切に対応している。</p>

<p>(6)教育環境</p>	<p>「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」、「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>設備については、更新のスピード感が年々早くなっており、それに対応していかなければならない。</p> <p>「防災に対する体制は整備されているか」について、適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとり、適時訓練の実施をおこなっている。</p>
<p>(7)学生の受入れ募集</p>	<p>全職員が分野のミスマッチングを減らすために学生受け入れ時より留意し、意識を持って募集にあたっている。</p> <p>方法として YouTube 等の動画に加え、Facebook 等の SNS を利用し学校の情報できるだけ発信し、HP においては「学校案内」、「募集要項」も閲覧可能として「わかりやすさ」「内容の充実」を意識し継続して図っている。また各分野の魅力が伝わるようなオープンキャンパスのあり方を重点的に検討していく必要がある。</p> <p>学校案内には 3 つのポリシー（募集方針・教育目標・到達目標）を公表し、求める学生像を明確にしたことで、「学習募集活動において、教育成果を正確に伝えられている」ことにおいては、一定の評価を得ることができている。ただ、明確にするだけでなく受入れ募集に関する内容が入学希望者を惹きつける内容になっているかもう一度精査する必要があり、HP も含め案内等の募集内容の改善を図っていくこととした。</p> <p>また、本校独自の奨学金制度を利用してもらい、保護者を含めた家庭への負担感を考慮するよう努めることができている点は評価できる。以上のことから、各評価項目をほぼ適切とした自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見で一致した。</p>
<p>(8)財務</p>	<p>特に問題なし。</p> <p>学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。</p>
<p>(9)法令等の遵守</p>	<p>「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」については、学校教育法改正による学則変更を行い新学則が大阪府に受理されており、この評価項目については、適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については、自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいるが、点検項目については今後も検討を重ねていく必要があるため、ほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>「自己評価結果を公開しているか」については、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行うことができているため、適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p> <p>また、今後は第三者評価の受審に向けた準備を進めていく必要があるという認識を共有しました。</p>

<p>(10)社会貢献・地域貢献</p>	<p>ボランティア活動を奨励しているが、参加者が少なく、普及活動の強化が必要である。 大阪府の離職者等再就職訓練 を開講している。 引き続き大阪市リハビリテーションセンターと講師派遣において提携している。 地域の中学校等の職場体験の受け入れができるよう準備を進めている。 その他は特に問題なし。</p>
<p>(11)国際交流</p>	<p>国内の日本語教育機関を経由しない直接海外から進学を希望する留学生の受入れについて、今後希望者が増加傾向にあるとの認識でその受入れを積極的に行うことを考えており、「留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか」について適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。 留学生においては学習指導だけでなく生活指導にも十分に留意する必要があると考えており、学級担任を中心に密にコミュニケーションをとり、学習能力・習熟度・生活状況等まで把握できるように教職員が意識しながら進めている。その結果、出入国在留管理庁より「適正校（クラスⅠ）」に選定され、また高い就職率などの一定の結果が得られているため「留学生の受入・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか」「留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか」の2点について適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。 また、日本学生支援機構 外国人留学生学習奨励費 職業実践専門課程枠として7名を受けることができ、社会的にも一定の評価が得られていると判断でき、「学習成果が国内外で評価される取組を行っているか」についてほぼ適切との自己点検・自己評価結果は妥当であるとの意見が一致した。</p>